



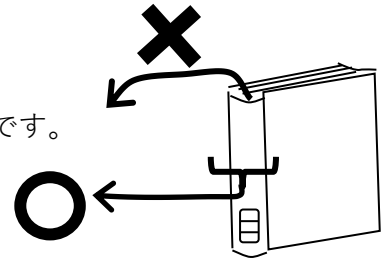
こんなとき、どうする？ ～図書館的資料の扱い方～



図書館としてはこんなふうに本や雑誌を扱ってもらえると助かる、ということをいくつかあげてみます。

<本を取り出すとき>

本の背の上に指を掛けるなかれ。背の横をつかんでほしいです。縦の力に弱いのです。



<破れたとき>

セロハンテープ・ガムテープで直すのだけは**絶対にやめてください**。特別な修理用テープや糊がありますので、図書館で破れた場所を教えてください。こちらで修理します。好意でやってくださっているのはよくわかります。でも、本が傷んでしまうのです。

<濡れたとき>

とにかく吸水力の高い紙で水を吸うしかありません！ キッチンペーパーが良いとされています。1ページずつ紙をはさんで重しをします。はさんだ紙が濡れたら、交換します。乾くまでやります。無茶苦茶大変です。濡らさないように注意してください。ドライヤーやアイロンで急激に乾かすと、ナミナミになってしまい、元に戻りません。

<失くしたとき>

弁償、ということになるのですが、まずは早めに図書館の人にどうすればよいのか聞いてみてください。もしかしたら他の人が見つけて、返してくれているかもしれません。

<違う図書館に本を返してしまったとき>

返却ポストを利用している学校だと、特に長期休業明けの「あるある」です。学校図書館の本が公共図書館に、また、その逆も。その時は本を所蔵している図書館に「この本を借りた人に連絡して取りに来てもらってください」という連絡がきています。

間違えたと気づいたときには、「〇〇図書館の『△△△』という本がそちらにないでしょうか」と連絡して取りに行ってください。

<ページに目印をしたいとき>

ページを折るのは、もちろん困ります。折ったところから傷んでしまいますから。実は付せんも資料を痛めます。付せんの糊がクセ者なのです。**しおり**を使ってください。いらぬ紙をちぎったもので良いから、しおりを……。ただ、大事なものを挟んだときは気を付けて。返された本の中から、ハガキや写真などを見つけることもあります。